

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第125号 令和7年(2025)6月10日



2点とも湯本豪一記念日本妖怪博物館
(三次もののけミュージアム) 蔵

資料見聞

佐藤正清四国征罰ノトキ

小曾か部元親ノ本城ヲ責落ス折カラ

不計深山ニ立入怪物退治ノ図

長宗我部元親(小曾か部元親)の名前を冠した妖怪画です。とは言っても、長宗我部元親が出ているわけではありません。佐藤正清(加藤清正)が豊臣秀吉の命で参加した四国征伐の時、元親の本城を攻め落とそうとした際、たまたま深山に入って怪物退治をしたという設定です。

「南無妙法蓮華経」の幟(のぼり)を背負い、槍を突き出した正清を中心に、家臣たちが、ムササビ、コウモリ、ガマ、トカゲ、イタチ、カニ、ネコ、クモなどの化け物と対決しています。

加藤清正は、賤ヶ岳七本槍の一人で、朝鮮出兵の際には虎を退治したエピソードも有名ですが、四国征伐ではあまり前線で活躍したわけでもなさそうです。

この絵は「芳虎画」とあるので、作者は歌川芳虎。おそらく歌舞伎や浄瑠璃が元ネタかと思われるが、作品は不明です。湯本コレクションには同題の作品が2点收藏されており、ほとんど同じ絵なのですが、よく見ると左端の蝦蟇(ガマ)が狒(ヒビ)に変わり、背景のデザインも異なります。夏の企画展「妖怪」では、前期後期に分けてどちらも展示する予定です。(梅野)

企画展「妖怪彙纂」^{るいらい} — 湯本豪一^{こういち}記念日本妖怪博物館(三次^{みよし}ものけミュージアム) セレクション —

会期：令和7年7月4日(金)～9月7日(日)

梅野 光興

水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」から最近の「妖怪ウォッチ」「ダンダダン」まで、妖怪はすっかり日本の子ども文化の定番です。小さい頃、白黒アニメの鬼太郎や「妖怪人間ベム」で妖怪を知り、好きが高じて民俗担当の学芸員になってしまった筆者としても感慨深いものがあります。

当館でも、平成15年(2003)の「あの世・妖怪・陰陽師―異界万華鏡―」を皮切りに、同17年(2005)の「鬼」、令和4年(2022)の「驚異と怪異」など妖怪や妖怪めいたものの展示を行ってきました。でも、100%妖怪という展示は今回が初めてです。

展示する資料のほとんどは広島県三次市の湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次ものけミュージアム)からお借りします。この博物館は、約5千点の妖怪資料を所蔵する文字通り日本の妖怪博物館です。資料を集めたのは湯本豪一さん。元は神奈川県の川崎市市民ミュージアムの学芸員で、同館で「妖怪展」や「日本の幻獣」展を行うとともに、個人的にも精力的に妖怪資

料を調査・収集してられました。このコレクションが三次市に寄贈されたことを受けて、平成31年(2019)4月に同館は開館しました。

実はコレクションが寄贈された三次市も妖怪ファンには有名な所です。寛延2年(1749)、稲生平太郎^{いのう}という少年の家に一ヶ月間毎日いろんな化



百物語絵巻 明治時代

稲生平太郎が体験した怪異を描く《稲生物怪録》絵巻の一つ。7月1日夜、大きな怪物が現れ、平太郎をつかんで座敷から引き出そうとする

2-5頁の資料は、湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次ものけミュージアム)蔵

け物が現れます。この話は《稲生物怪録》などと呼ばれ、絵巻や写本で各地に広まり、江戸時代最大の妖怪事件とされています。博物館が建っているのは、稲生武太夫(平太郎)碑の近くです。そんな言われのある所に妖怪博物館ができたのは何とステキなことでしょう。

妖怪とは？

そもそも妖怪とは何でしょう？

現代に生きる私たちは、マンガや小説などの本や、アニメや映画といった映像で妖怪に出会うことが多いので、妖怪とは誰かが創作したものかと思いがちです。もちろん現代では創作ものも多いですが、もともと妖怪は村や町で人々が語り伝えたものでした。どこそこの川には河童がいるとか、この間だれそれが狸に化かされたそうだ、など妖怪は現実世界の中に存在していたのです。

見たという話があっても姿形はあいまいで、それを言葉で伝えるのですから、もっとボンヤリしていきます。背が高いとか、木よりも大きいとか、抽象的な表現で語られた姿を、聞いた側



病現之図絵巻 安永9年(1780)

病になった日の干支によって原因を占うもの。鬼、蛇、水神、死霊などさまざまな原因が描かれている

はまた自分の頭でイメージしました。妖怪にはもともと決まった姿はありませんでした。

なので身近な物や動物が妖怪になりましたし、火や光、音だけの五感に訴える妖怪もありました。一回だけの個人的な体験なら、不思議な出来事があったと語られて終わりですが、同じ場所で別の人が同様の体験をしたりすると、どうもあの場所にはタヌキがいるらしい、シバテンが出るらしい、と犯人が特定されていきます。道を歩いていて急に砂が降ってくると「スナカケババ」や「スナマキダヌキ」のしわざだ、山で木を伐る音がすると「天狗倒し」や



大江山絵巻 寛延元年(1748)

寝入った酒呑童子に襲いかかる源頼光と四天王。切り落とした首が頼光に襲いかかる



付喪神絵巻 江戸時代

古くなった道具が妖怪化した付喪神を護法童子(右手)が追い払う



変化絵巻 江戸時代

丹後国の武士津田藤十郎の屋敷に次々と現れる妖怪や怪異を描く。図は一つ目入道だが、他に大蟹や大入道も出現する

《稲生物怪録》も「変化絵巻」も実際の代表が三次の絵巻です。丹後を舞台にした「変化絵巻」は、武士の屋敷に一つ目入道や大入道、蟹の化け物が次々と現れるというもので《稲生物怪録》と同じパターンです。

■江戸の妖怪図鑑
現在書店や図書館で見ることができ
る妖怪図鑑を見ると、実に多くの妖怪

《稲生物怪録》も「変化絵巻」も実際に起きたこととされています。江戸時代になると、出版が盛んになり、全国各地の怪異譚を集めて紹介する《諸国百物語》形式の書物が多数出されるようになります。このような流れの中から、たくさんの種類の妖怪の姿を描く妖怪図鑑のような作品が生まれてくるのです。



化け物づくし絵巻 江戸時代

さまざまな妖怪を描くが物語性は弱い「妖怪図鑑風絵巻」の一種

■絵巻物に見る妖怪のスターたち

日本で妖怪めいたものが初めて現れ

「フルソマ」だと言われ人格?も生じます。民間に伝えられてきた妖怪はこうやって生まれ、育まれてきたと思われれます。ただし、妖怪は歴史民俗資料館の研究対象ではありますが、姿形が無いので展示できません。
ですが一方では、数多くの妖怪を描いた絵巻や本が残されています。ここからは展示物を紹介しながら妖怪資料の歴史をたどってみましょう。

るのは奈良時代の記紀神話でしょう。八岐大蛇が有名ですが、「日本書紀」や「風土記」には鬼も登場します。造形化された鬼としては、飛鳥時代に作られた仏教の四天王像が足元に踏む邪鬼や、奈良時代以降の鬼瓦があげられます。絵画としては、12世紀頃の絵巻物「地獄草紙」が最も古く、地獄の獄卒として鬼の姿が描かれています。
でも妖怪画が最初に発展するのは中世です。さまざまな物語が絵巻物として描かれ、その中に妖怪退治の物語も含まれていました。

■妖怪屋敷絵巻

代表選手はやはり鬼。源頼光と四天王が大江山の鬼を退治する「酒呑童子」が有名です。他にも土蜘蛛や九尾の狐を退治する絵巻もあります。さまざまな姿形の妖怪が行列する「百鬼夜行絵巻」の最古の真珠庵本は16世紀です。これらの絵巻は江戸時代から近代にかけて数多くの写本やモチーフを同じくする絵巻が作られており、湯本コレクションにも多数収集されています。

「酒呑童子」のように遠い所に退治に出掛けるのではなく、屋敷の中にさまざまな化け物が現れるという絵巻もあります。中世の「土蜘蛛草紙」もそのパターンですが、江戸時代に増えるようになります。その代表が三次の《稲生物怪録》絵巻です。丹後を舞台にした「変化絵巻」は、武士の屋敷に一つ目入道や大入道、蟹の化け物が次々と現れるというもので《稲生物怪録》と同じパターンです。



画図百鬼夜行
本資料は29種の妖怪を収録。
図版は一つ目の青坊主



絵本百物語
「鍛冶が噂」は野根（現東洋町）の
鍛冶屋の妻に化けた狼が人を襲う話

が日本にいるんだと驚かされます。でも、中世までは妖怪の種類は鬼や狐など数えるほどで、それほど多くありませんでした。

その状況が変化するのは江戸時代です。物語性は無く、たくさん種類の妖怪の姿と名前だけを紹介する絵巻が作られるようになるのです。研究者はこれを「妖怪図鑑」的絵巻と呼んでいます。このスタイルの絵巻も多種多様で、今回展示する「化け物づくし絵巻」もその一種です。高知県では「土佐お化け草紙」が同じスタイルです。ただ絵巻だと肉筆の1点ものなので、

見る人は限られます。江戸時代に発展した印刷文化は妖怪図鑑を版本として出版するに至ります。安永5年（1776）に一冊目が出版された鳥山石燕の『画図百鬼夜行』シリーズは、それまでの絵巻の妖怪たちに石燕



神農化物退治絵巻 江戸時代 放屁攻撃のくさに化物たちもなすすべもなく倒れていく

のオリジナルも加えて12冊も刊行されます。ここには「鬼太郎」に敵役として登場する妖怪たちの原型が多数収録されています。

多種多様な姿形の面白さに惹かれるのは、今も江戸時代も変わらないようです。印刷物として流通することで、妖怪の名前とイメージが一体化して広まりました。すると、そのデザインを使って、双六や「化け物づくし」と称するおもちゃ絵としてグッズ展開します。人間くさい妖怪が活躍する絵本も登場しました。滑稽な妖怪たちの黄表紙がたくさん作られています。まさにマンガの世界です。

「神農化物退治絵巻」は、農業や医薬の祖とされる「神農」が妖怪を退治するという一見「酒吞童子」や「土蜘蛛」の系譜かなと思いますが、その方法たるや、芋を食べて、くさい屁でやつつけるというトンデモナイ内容。でもやられる妖怪たちがフニャフニャでカワイイんです！

妖怪モチーフは装いの中にも取り入れられていきます。煙草入れや印籠、巾着などを吊り下げ、帯に挟む時に使う「根付」や、刀のつば、着物の裏地などに妖怪が潜んでいます。

幕末には妖怪が大挙して登場する錦絵も多数出版されています。歌舞伎の題材に妖怪退治を取り上げたものが



鬼図鐙
鬼のデザインの刀の鐙



一つ目妖怪根付
他にも天狗や幽霊などさまざまな形がある

あったことも一因ですが、当時の政治や世相を風刺するものもありました。

■うわさと妖怪事件

昔の人は妖怪を信じていたかと思えば、どうやら今と同じで娯楽の対象として妖怪を消費していたようです。日本の妖怪カルチャーは鬼太郎以後の産物ではなく江戸時代に既に出来上がっていることに驚かされます。こんなことがわかるのも湯本さんが名品や美術品だけでなく妖怪資料なら何でも集めていたおかげです。

ところが人間とは不思議なもので、妖怪がキャラクター化し、娯楽の対象となる一方で、どこかに実際にいるのではないか、という感覚も消えません。



大神社姫 新潟の浜に現れ、豊作と悪病を予言した



おばけおどけ 大正元年(1912)

明治時代の関西地方の怪異や妖怪を絵入りで記録したもの

「土州奇獣之図并説」は、土佐で見つかった変わった生きものの報告です。

同様に日本各地で河童や幻獣を見たという瓦版が出回りました。その出現した幻獣が、「数年後にコレラなどの病が流行るが、その時自分の絵をはっておけば病除けになる」などというのが予言獣です。有名になったアマビエもこの仲間です。高知にも「姫魚」の絵が四十町の西尾家に伝わっています。今回は姫魚の仲間である「大神社姫」もお借りして展示します。アマビエや姫魚は江戸などの都市から遠く離れた所に現れるのが特徴です。アマビ

エや神社姫は、幕末の人びとの不安な感情の反映でしょう。

明治時代になると迷信は無くなったかというところ、そう簡単ではありません。明治時代初期の錦絵新聞には妖怪や怪異を題材にしたものがいくつもあります。新聞と言えど正確な情報を伝えるメディアということになっていますが、草創期の新聞には今の週刊誌や怪しいテレビ番組のような役割もあって、結構妖怪や幽霊の話が載っていました。錦絵新聞はそんなネタに絵をつけたもので、消えたタクシの乗客の明治版と言うべき、消えた人力車の乗客を題材にした錦絵新聞もあります。

大正元年の「おばけおどけ」も明治時代の妖怪事件の記録ですが、ユーモラスな絵が大変魅力的です。

そして昭和から平成、令和へ

戦後になってからも、駄菓子屋のおもちや紙芝居など怪異への関心は無くなりません。最初に述べた白黒アニメの「ゲゲゲの鬼太郎」が昭和43年(1968)で、この年には「妖怪百物語」など妖怪映画も作られるなど妖怪ブームが巻き起こりました。以後妖怪は子ども文化の定番として流行りたりはありながら現代に続いています。民俗学では1990年代になると常光徹氏が『学校の怪談』を発表し、小松和彦氏が総合的な妖怪研究を推進し

ました。妖怪画の本もどんどん出版され、博物館や美術館でも妖怪展が毎年どこかで開催される状況が続いています。一方、リアル妖怪の影が薄くなってきたところが、コロナ流行時にはアマビエが大流行。妖怪のもつ不思議な力が見直されました。もはやお化けなんているはずがない、という言葉です。日本はここまで妖怪から逃れられないのか？ 妖怪だけではありませんが、どうやら人間にはリアルなものだけでなく、空想の世界が必要なのだ、としか思えません。妖怪は、私たちにそのことを問いかけているようです。

関連企画

高知県立美術館映画上映会
「奇奇妖怪—ニッポン・異界紀行—」

8月23日(土)・24日(日)

当館の「妖怪壘」と連携し、美術館では、「夜叉ヶ池」「犬神の悪霊」の2本の妖怪映画が上映されます。



夜叉ヶ池

「夜叉ヶ池」4Kデジタルリマスター版
©1979/2021 松竹株式会社



犬神の悪霊「犬神の悪霊」©東映

「夜叉ヶ池」は越前の山中にある夜叉ヶ池の龍神が、「犬神の悪霊」は西日本に多い憑き物がモチーフになっています。いずれも日本文化に沈殿する伝説や俗信を通して、日本の異界を垣間見せる作品です。企画展の半券持参で割引があります。24日には歴史学芸員のトークも行いますので、ぜひあわせてご覧下さい。

新収蔵資料紹介

地蔵菩薩立像（香南市所蔵・高知県保護有形文化財）



画像提供：香南市

令和6年度に新しく収蔵した資料のなかから、「地蔵菩薩立像」をご紹介します。

本像は、香南市香我美町上分堀ノ内にある地蔵堂で本尊としてまつられていたお像です。像高（台座を含まない）は約一七〇cm、重厚感と存在感のあるお地蔵様です。

江戸時代後期にまとめられた「南路志」には、香美郡山南村に「川内山徳泉寺地蔵院」の記述があり、真言宗の五台山竹林寺の末寺であること、本尊が地蔵菩薩であることが記されています。明治時代になると、政府が出した神仏分離令をきっかけに、仏教を排斥する廃仏毀釈が全国で巻き起こり、高知県においても、明治4年頃をピークに多くの寺院が廃寺となります。地蔵院も例外ではなく、明治4年に廃寺となりましたが、明治42年に現在の場所

に地蔵堂として再興されました。

●地蔵菩薩とは

仏像には4つのグループがあります。最高位はほとけである「如来」で釈迦如来や薬師如来がいます。「菩薩」は、「如来」に次ぐグループで、悟りを開くべく修行を積みながら、私たち衆生の願いを聞き、救いを差し伸べてくれる存在です。弥勒菩薩や観音菩薩、そして地蔵菩薩がいます。

「お地蔵さん」と親しみをこめて呼ばれる地蔵菩薩は、お釈迦様が亡くなったあと、衆生を見守り導く存在といわれています。そのため、路傍に立つ姿を見かけたり、「笠地蔵」などの昔話に登場したり、私たちにとても身近な存在ともいえるのではないのでしょうか。

本像の制作年や仏師名は不明です

が、鎌倉時代以降に登場する玉眼（眼に水晶を入れ、潤んだ瞳を表現する技法）が使われていることや、衣文が深く刻まれる表現などから、鎌倉時代後期（13世紀）の制作と考えられます。

●地域が守ってきた

本像が安置されていた地蔵堂は、香南市岸本にある宝幢院の境外地という扱いでしたが、普段、人は住んでおらず、集落からも少し離れた場所にあります。したがって、その管理は地域の方々が長年、担ってこられました。

一方で、本像は、鎌倉時代の仏像として歴史的価値が高く、平成23年度には高知県の保護有形文化財に指定されています。

しかし、近年の過疎化、高齢化の進行により、地域の力だけでは、地蔵堂の維持管理が難しくなり、建物が傾く、雨漏りがする、動物や虫が侵入するといった状況が続いていました。

令和3年には、香南市、県とともに当館も実際に地蔵堂へ伺い、状況を拝見しました。



令和3年には、香南市、県とともに当館も実際に地蔵堂へ伺い、状況を拝見しました。

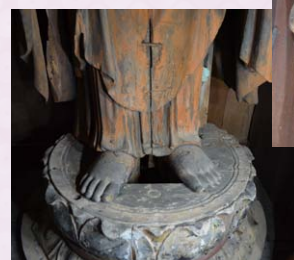
地域の方々からは、なんとか地蔵菩薩立像だけでも守ってほしいというお声があり、協議を重ねた結果、本像は香南市へ寄贈されました。そして、2年間にわたる解体修理が行われ、当館へお預けいただくことになりました。本像は、貴重な文化財であることはもちろんですが、七〇年以上、世代交代しながら人々の信仰により守り伝えられてきた地域の記憶でもあります。香南市の文化財担当者が中心となり、迅速かつ柔軟な対応がとられたことにより、本像を後世へとつないでいくことができました。（那須）

* * * *

現在、本像は、当館3階の総合展示室で展示しています。時期に関わらず、開館日であればいつでもご覧いただくことができます。



▶接合部がゆるみ、生物被害もみられた。



◀台座には穴があいていた。



第20回岡豊山フォトコンテスト作品募集開始!

長宗我部氏の居城跡にして、サクラやツツジをはじめ季節折々の植物を見ることができる岡豊山の魅力を再発見していただこうと、今年も「岡豊山の春夏秋冬」をテーマに、岡豊山の写真を募集します!

一般部門とケータイ・スマホ部門があり、最優秀賞、優秀賞、スマホ大賞、各種特別賞を選びます。応募作品は、11月23日(日・祝)～1月18日(日)にかけて館内で展示。応募作品の一部を掲載したオリジナルカレンダーを作成します。

募集期間は7月2日(水)から10月24日(金)17時まで。一般部門は持参または郵送、ケータイ・スマホ部門はデータ送信で受け付けます。ふるってのご応募をお待ちしております!(くわしくは当館HPをご確認ください。)

(総務事業課)



岡豊山フォトカレンダー



「今よみがえる、長宗我部の寺—瑞応寺跡3年間の調査記録—」展示

国史跡・岡豊城跡のある岡豊山の麓に長宗我部元親が建立したとされる寺跡(瑞応寺)があります。令和4～6年度の3年にわたり南国市教育委員会による発掘調査が行われました。調査記録を、長宗我部フェス関連企画として4月26日(土)～6月1日(日)、エントランスホールにてパネルで紹介しました。さらに、5月9日(金)からは天目茶碗や備前焼の灯明皿などの陶磁器片のほか、鉄砲の玉や鉄釘、基石など、実際に出土した遺物も特別に展示しました。

今後、地域の歴史や文化を語るものとして活かされるよう、国史跡・岡豊城跡にこのエリアの追加指定を目指す取り組みが進められています。

(総務事業課)



ものべがわエリア観光博「ものべすと」開催中

2025年度前期の連続テレビ小説「あんぱん」で、主人公の夫のモデルになったやなせたかしさんゆかりの地・ものべがわエリアの様々な魅力を堪能できる観光博「ものべすと」。当館もいろいろなイベントで参画・協力しています。

まず、ヤ・シィパークで開催されたプレイイベント「ものべすとフェスタ2025」には、甲冑体験ブースを出展。「重いねえ。これでよう走らん!」と、レプリカとはいえ結構な重さの甲冑を子どもから大人まで87人に実体験していただきました。

4月開催の「岡豊山さくらまつり」では、南国市、香南市、香美市のものべがわエリアを代表するやなせさんデザインキャラクターたちがステージに登場。クイズを出題したり、「手のひらを太陽に」(やなせさん作詞)の歌に合わせて踊ったりと、会場は大盛り上がり!キャラクターグッズが当たる抽選会も賑わいました。

5月開催の「長宗我部フェス」で、ひときわ注目を集めた企画が「甲冑あんぱん食い競争」。段ボールや大きな模造紙で作った兜を身に着けた参加者に混ざり、普段、鉄砲を担いでいる甲冑武者たちがあんぱんに食らいつく姿は他では見られないものでした。

さらに毎年好評の「南国I.C.わくわくゾーンスタンプラリー」も、今年はものべすと特別バージョン。参加施設も増え、グッズや特産品のほか、宿泊ペアチケットが当たります。

「あんぱん」放送は、9月末までですが、観光博「ものべすと」は、来年2月8日(日)まで。「さがそう!ものべ・カラフル旅」など、ものべがわエリアが堪能できるモデルコースもあります。このあとも伝統あるお祭りやイベントが目白押し。季節の自然も感じられるものべがわエリアをぜひ、お楽しみください。

(総務事業課)



「ものべすとフェスタ2025」甲冑体験ブース



「長宗我部フェス」甲冑あんぱん食い競争

れきみん！ サマーミュージアム

7月26日(土)、8月11日(月・祝)、8月23日(土)

子どもから大人まで楽しめるワークショップなどを開催します。今年は妖怪がテーマです。

民家で囲炉裏の火焚き

6月15日(日)、9月21日(日)

岡豊山歴史公園に移築した茅葺屋根の山村民家で、7月、8月を除く毎月第3日曜日9時半からお昼前まで、いろいろに火をいれます。ご参加お待ちしております。



高知県立歴史民俗資料館 研究紀要 第29号

(550円+送料215円) 販売中!

- 調査報告：四万十市横瀬観音堂(高尾寺)・同古津賀観音堂(観音寺)・高知市観音正寺仏像調査報告
神野祐太・那須望
- 資料紹介：土佐の考古学史 遺跡発掘写真1
南国市野中廃寺の発掘と写真フィルム
岡本桂典
- 資料紹介：大川上美良布神社の上葺相目録
野本亮

臨時休館 6月23日(月) 館内清掃のため

岡豊風日(おこうふうじつ) 第125号
令和7年(2025)6月10日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-11
TEL 088-866-2221
FAX 088-866-2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)
臨時休館することがあります
令和7年(2025)6月23日(月)
観覧料 (通常展) 大人(18才以上) 500円
団体(20名以上) 400円
(企画展) 常設展示込み 700円
団体(20名以上) 560円
※特別展は別に定めます
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳
所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所
持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

<https://www.kochi-rekimin.jp>
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 妖怪るい るい 襲撃

—湯本豪一こういち記念日本妖怪博物館

(三次みよしもののけミュージアム) セレクション—

7月4日(金)～9月7日(日)

「湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)」は日本一の妖怪専門のミュージアムです。同館は稀代のコレクター・湯本豪一さんが約5千点の妖怪コレクションを広島県三次市に寄贈したことからオープンしました。本展は、同館所蔵の絵巻や冊子、おもちゃなどえりすぐりの妖怪資料を展示し、そのエッセンスを紹介するとともに、畏怖の対象だったみえない妖怪を視覚化し、娯楽の対象へと展開してきた人々の想像力の歴史に迫ります。



土州奇獣之図并説
湯本豪一記念日本妖怪博物館
(三次もののけミュージアム) 蔵

企画展関連催し

※全て要観覧券、ミュージアムトーク以外は要予約・先着各100名

- 講演会 「妖怪を集める—日本一の妖怪コレクションから読み取れること—」
8月3日(日) 14:00～16:00
講師：湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)
名誉館長 湯本 豪一 氏
- 講座「土佐妖怪列伝」各日14:00～16:00
7月20日(日) ①ヤマンバ、山父、笑い男
8月30日(土) ②七人ミサキ、ケチビ、ヤギョー
当館学芸員 梅野 光興
- ミュージアムトーク
7月26日(土)・8月11日(月・祝) いずれも14:00～14:30

次回企画展 武市半平太の書画

10月10日(金)～
令和8年1月12日(月・祝)

土佐勤王党の盟主・武市半平太(瑞山) 没後160年にちなんで、県内各地の半平太の書画を一堂に集めます。



武市半平太獄中自画像(当館蔵)